

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。〔13番 伊藤文博君登壇〕

○13番（伊藤文博君）

新政会、伊藤文博です。

本日は糸魚川市活性化への戦略について質問をいたします。

糸魚川ジオパークは、日本で最初に世界ジオパークに認定されました。地域活性化に大きな期待が寄せられた中、昨年12月に「糸魚川ジオパーク戦略プラン」が策定され、本年5月には糸魚川ジオパーク戦略プロジェクトの方向性が示されて、プランを実践する段階となっています。

また、平成26年度末には北陸新幹線も開通することになり、それまでに、ハード、ソフト両面での整備と活性化が求められています。

地域の方々から取り組みの甘さを指摘され、思うほど目に見えた形になってこないジオパーク、新幹線活用に対して不満や不安の声が聞かれます。

観光に関しては後進地である糸魚川市が新幹線開通後に向けた下地の強化、基礎固めを行うことと、具体的な施策により交流人口の拡大を図ることを合わせて行っていかなければなりません。次の点についての取り組みを伺います。

- (1) 現在行わなければいけない下地の強化、基礎固めとしてどのようなことを考えているか。また、現在の取組状況と今後の計画はどうなっているか。
- (2) 交流人口拡大の具体的施策としてどのようなことを考えているか。また、現在の取組状況と今後の計画はどうなっているか。
- (3) あらゆる事業において、ジオパークと関連付けた検討を行うことが日常的に職員に意識付けられて行われているか。
- (4) 国、県との連携はどのように図られているか。
- (5) JR各社、旅行代理店、民間シンクタンクなどとの連携はどうなっているか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、交流人口の拡大を目指してジオパークを推進するため関係団体との連携や、ガイドの養成などの人材育成と解説看板の整備など受け入れ体制の強化が必要と考えております。

今後も、おもてなしの充実や意識の向上などに引き続き取り組んでまいります。

2点目につきましては、旅行関係機関との連携が重要と考えて取り組んでおります。

今後も情報発信、誘致拡大と受け入れ体制整備を進めてまいります。

3点目につきましては、プロジェクトチームを設置するなどして市内一体となって取り組んでおります。

4点目につきましては、ジオパークのユネスコ正式プログラムへの承認と、ジオパーク支援強化について関係省庁に働きかけを行っております。

また、県につきましては、糸魚川地域振興局を窓口として人的な協力をいただくとともに、情報発信などについて連携を図ってまいります。

5点目につきましては、JR西日本と東日本からは、情報発信と誘客にご協力をいただいております。また、旅行各社とは積極的なツアー誘致活動を展開いたしており、民間シンクタンクには糸魚川ジオパークの推進にご協力をいただいております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

この件は何度も質問してきました。今回どうしてもやらなければいけないというふうに思ったのは、歯がゆい気持ちと難しさを感じて、そして突破口を開いていきたいという思いからであります。

項目が関連していますので、質問が前後するかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

いま一つジオパークに関する一般市民との一体感を醸成しきれないという点では、担当課も歯がゆさを感じているんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

お答えいたします。

正直なところを、非常に自問自答しながら3年間やってきました。私なりに成果を出すというのは、交流人口拡大で大きな意味合いですし、やはり世界認定をいただいたジオパークと、それから新幹線が開業という1つのターゲットでワンチャンスというふうにとらえながら、交流人口拡大を

目指してきたつもりです。

ただ、決してそれは市民なり、ほかの責任ではなくて、私たち自身がもうちょっと違ったインフォメーションなり、戦略的なプログラムの展開という部分で、また、多方面からやり方をいろんなふうに検証しながら考えていけば、もう少し前に進めるかなというふうな気もしております。

ただ、市民全体がやはりベクトル合わせということで、部長もよく言いますけど同じ方向を活用の度合いでしっかり見定めて前に進む。市民全体のその領域の中で、自分たちがやれることを手を携えて一緒にやろうと。糸魚川市の全体的な市民力としてのやはり情報発信というのは、もう少しつくっていかなくちゃいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

打った施策の効果が発現する時期という視点でとらえていくと即効性のある対策、これはイベントなんか主になっていくと思いますが、それから時間をかけて取り組んでいかなければいけない長期的対策がある。取り組み初期であっても、両方を同時に行っていかなければならないというふうに考えるんですが、それぞれについて短期的施策、長期的施策という意味で言ったときに、どのように整理して取り組んでおられるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

議員お話のとおり糸魚川のジオパーク戦略プラン、その後、糸魚川ジオパーク戦略プロジェクトということで、庁内グループが主体になって仕分けといいますか、活動すべき方向をしっかりとめながら展開してきたつもりです。

その中では誘致拡大、情報発信ということで、外に向けての糸魚川の情報発信なり、あるいはコンテンツ、素材としての糸魚川の磨き方、そういうものをしっかりしていこうということとか、それからもう1つは忘れていけないのは、先ほど話しました受け入れ体制の整備ということが大きな課題であります。これは市民レベルでもそうですし、それからガイドの部分でもそうだと思います。

それから大きくは、それを受け入れる各市内の施設、その対応というのも重要なことだと思います。

短期的には、いろいろ戦略的に考えながら食を中心にした集い、あるいは定期観光を含めた四季

折々の催事のあるいは誘客設定、また、そういうものへの既存のプログラムの中にジオを絡ませていくというエッセンスといますか、そういう切り口も必要ではないかなと。少しジオパークが、まだまだ知られてないとすれば、逆に既設の観光とかプログラムで誘客拡大をしながら、できるだけジオを、糸魚川に来たときに学んでいただくという姿勢も必要ではないかなというふうな取り組みをしております。短期的には、先ほども言いました食、ないしは既存の食材を使ったやはり提供の仕方、それから温泉地との提携。

長期的には、特に小谷、白馬、大町を含めた広域的な連携、それから上越、妙高を含めた情報発信を少し拡大したような中期的な取り組み、それから県内を主体にしたどこでという展開であります。日帰りを主体にした県内向けのプログラム制作、あるいは県外へのはとバスを含めた各旅行会社への連携プランということで、遠近含めてそれらを活用しながら、いろんなふうに分展開させていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

これだけ聞いただけで、今ほどたくさんお答えが出てくる。かなりいろいろ詰めて整理がされていることがわかります。

その中でも市民の理解促進という意味の基礎固めですね、これが本当に重要だというふうに私は考えます。地域の方々の目線では基礎固めばかりといいますか、何て言いますかね、基礎知識の周知だとかいろんなことをやっても、なかなか具体的に周辺に変化が感じられないから、逆に意識が高まらなくて基礎が固まらないというようなことがある。具体的変化を感じる中で、それぞれの意識が変化していくということをやっていくかなければいけない。

イベント等に直接かかわっている方々は、ほとんど心配ないですよ、もうそういう意識があってやっていますから。しかし、糸魚川まるごとジオパークだとか、糸魚川市民がまるごとジオパークの推進員だというような状況をつくらなければ、本当の意味で糸魚川がよくなっていかない。ジオパークが活性化のツールにはならないと思います。変化を感じさせながら理解を促進して、機運を盛り上げていくということが大事になってくる。言われてみれば両方やっているということではなくて、ここを明確に意識して取り組んでいく必要がある。

先ほど答えられた長期的、短期的施策というのは、どっちかというとなんて言いますかね、誘客拡大に直接つながっていくことだと思うんですけど、その前にというか同時に、市民の意識向上ということをやっていくとだめなんではないかと。そこを明確に意識して取り組んでいくという必要があるんですけど、この取り組みについてはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ジオパークにつきましてのこの理念についてはご存じのとおり、その自然の特出した資源を保護、保全と、そしてまた地域振興という中で、今回まちづくりに使えるという形で取り入れさせてもらっているものであります。まさしく今、議員ご指摘のとおり市民お一人お一人に、全て取り組んでいただくのが、一番最大のやはり方向性であると思っております。

そういう中で、今ほど言いましたように、その市民の方々に取り組んでいただくことが大事なわけがございます。地域振興を見ていただいてもおわかりのように、行政だけでやっても、絶対これはもう成功するものではございませんので、市民の皆様方からもやはり立ち上がっていただくことが大事、そういうことで呼びかけが必要ということで、同じ1つの考え方になるわけでありませぬ。

そういう中で、当初は、まず世界ジオパーク認定を目指したものでございますので、そういったジオパークの考え方、そういったものを知っていただくこと。それと両面合わせて、やはりおいでいただいた方々がどのように対応しているかという、市民をやはり見ることもあるわけがございますので、そういったときに市民はどのように活動、行動してるかというところがある。それを立ち上げてもらうことと、ただお願いしますという形ではだめなんだろうということの中で、市民の皆様方が立ち上がっていく方向で、今進めさせていただいてまいりました。

例えば1つの例といたしましては、客商売にかかわっておる方々もご協力いただくというように形で、宿泊施設、またはいろいろ接客しておられます飲食、または理容・美容の方々にまず知っていただくという形で進めさせていただいております。今、もう1つは、やはり広く呼びかけさせていただくのは、今、地域づくりプランの中で、その辺もあわせて進めなくてはいけないんだろうという形でさせていただいております。

しかし、なかなか今まででさえも、地域振興という目的は非常にわかりやすく理解もしやすいし、いいことでもあるわけですが、できてこなかった中においては、なかなか難しい部分だろうと思っております。このジオパークという新しい1つの活動の中でスタートができればということでございまして、ジオの多様性の中で、いろんな持ち合わせる地域の個性で立ち上げられるような仕組みであることは間違いないので、その辺を探しながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

考え方は、そのとおりだと思います。実際に誰に聞いてもジオパーク、糸魚川ジオパークだよと。市民全員というか大多数の人たちが、ジオパークに対して肯定的な環境づくりをしていかなければいけませんね。聞いたら、いや、ジオパークなんちゃねえなんていう話になるようじゃ困るわけでして、この環境づくりをしていくために、理念は今、市長が言われたことはよくわかります。具体的に、どうするかということですね。

先ほどプロジェクトチームをつくってという話もありましたが、今、私が言っているようなことを具体的に庁内で話をして、いろいろな方法を探っているというような実態はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

特にプロジェクトチームでは各課連携で、産業部が主体になっておりますけども、当課も年に1回春の時期に、いろいろ課を聞き取りしまして、ジオパーク関連でかかわれる、お互いに連携とれる催事なり、推進の方法はないかということで各課と連携を保っております。そういう意味では、少しずつではありますけど、意義づけといいますか意識づけがなされて、少しずつ活動に生かされているのではないかなというふうに思います。

ただ、それが先ほど議員が話のとおり、末端の市民まで届くかというのは、なかなかまた別の話でありまして、いろんな方がいらっしゃいます。あえて業としてもそうですけど、自分から世界ジオパークを活用しようという意識は、全部が持っているかということ、まだまだだというふうに思います。

ただ先般、うれしい事柄がありまして、1つの例として紹介させていただきたいと思いますが、クラシックカーレビューということで議長さんもマイクを持っていただきました。前代未聞で3万人の方が炎天下の中、集合されました。市内も物すごく昼間、昼食で場所がなかったぐらい大変にぎわったそうです。ガソリンスタンドも非常ににぎわったということで、市民の方の、多分ジオパークマスターを受けられた対象者だと思いますけど、お客様には市外から来られる人に、山のほまれをサービスにお配りしたというふうに聞いております。こういう結果そのもの、あるいは1つの出来事が、やはり市民それぞれがジオパークを意識して、お互いに取り組める材料ではないかなというふうに思います。こういう高まりがやっぱり市中にずっと勢いよく出てきて、誰でもやっぱりジオパークが普通に、オリンピックや世界遺産と同じレベルといいますか情報で、よく自分たちが、市民一人一人が理解できるとすれば、私はすばらしい糸魚川になっていくというふうに考えておりますので、もうしばらく職員含めて啓発なり、意識統一をしていきたいというふうに考えて

おります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

ジオパークって何と、それからジオパークで何を伝えたいのとか、ジオパークってどこを見たらいいのというような問いに対して誰もが答えられるように、道を歩いてる人たちが、市民が答えられるというのか理想なわけですが、でも、どうしたらいいかということですね。

直接的にどうする、その人たちを教育するというよりも、まず、「ジオパーク」だとか「糸魚川」「ヒスイ」といったキーワードを市内、それから市外の方々が、日常的に目にする状況をつくっていかなければ、そこに人がひっかかってくるといいますかね。例えば、ジオパーク検定というのは非常にいい取り組みですが、これは一部の限られた方ですね、よっぽど熱心な方たちと。そうではなくて、そういういい取り組みプラス、誰もがジオパークを身近に感じられる取り組みをしていかなければならない。

先ほどのクラシックカーレビュー、これはイベントとしてはすばらしいイベントだと思います。ただ、そういうことの前、僕が言ってるのはもうちょっと基礎的なところなんですけど、そういう状況をどうやってつくり上げるかというところを庁内で、若手が中心になって検討していかなくちゃいけないと思うんですよ。

先ほどの話ですと、年に1回、各課から聞き取りしとると、それはもうプロジェクトとしては非常に弱いんですね。やはりもっと頻度を上げて、日常的にジオパークで糸魚川を何とかしようという熱い集団みたいなのが出てこなくちゃいけない。それが庁内から外に発展して広がっていくというような火つけ役的な役割を果たすところが、やっぱり必要なんだろうというふうに思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

○産業部長（酒井良尚君）

今ほどのご質問でございます。庁内のプロジェクトチームのそれぞれのメンバーにつきましては、年に1回ということではありませんで、たびたび私のほうから招集をして、プロジェクトチーム長の会議とか、あるいは各庁内、産業部以外の皆さんも含めた全体会議というのを今年度に入ってから今2回、それから、できれば今月にもう1回やりたいというふうに考えるところでございます。

そういった中で、やはりご指摘のように市民の皆さんがどういったらジオパークというものを自

分たちのものとして、日常的に意識していただくか、これは非常に大きな、重要なテーマだというふうに感じております。

田原議員からもご質問をいただいてお答えしましたように、やはりジオパークって何だっていうことを身近なフレーズで、あるいはキャッチフレーズ的なもので言いあらわせるような、そういったものを何とか考え出したいなということで、メンバーの中ではこういった見せ方をすればいいかというのを今詰めていこうというふうにしておりますけれども、ご提案のように例えば標語的なものとして、あちこちにこういった形、こういった形って見えるようにすることも1つのやっぱり考え方、あるいは方法だなというふうにも感じております。そういったところを参考にしながら、できるだけ市民の皆さんがジオパークって何ですかって聞かれたときに、すばっとうございますよと言えるように何とかもっていきたいというふうにも、今考えるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

先ほど私が言ったのはプロジェクトチームを1回しかやってないという意味じゃなくて、各課からの聞き取りが1回だけだと、それはやっぱり弱いでしょうと。もっと庁内全体で一体となっていくためには、もう少し頻度を上げた取り組みをしていかなきゃいけないんじゃないかということでもあります。

観光市場で、糸魚川ジオパークをヒットさせるということだと思えますよ。その戦略が重要になる。ここにジオパーク戦略プランもあります。それからプロジェクトの方向性もあります。かなりこっちのほう具体的に書いてますが、情報発信というのが非常に大事になってくる。

先ほどから情報発信という言葉が大分出てくるんですが、この戦略プランにも情報発信機能の充実というのがあります、項目がある。ところが、これよく見ると、受け入れの充実のほうになっているんですね。来ていただいたお客さんにいろいろなツールとして、情報提供の仕方でも情報発信機能を使うということになってます。誘致拡大に最も重要な情報発信が、その大事な誘致拡大のところでどうなっているかって言えば、ジオパークの普及、PRの下にあって、北陸新幹線開業に向けたキャンペーン等による情報発信として、PRビデオなどの作成がうたわれているんですね。だけど今、PRビデオなんか誰も見ませんよ。

だからいいものは取る、悪いものは省けばいいんですけど、せっかくお金をかけて作成したジオパーク戦略プランですが、よく総花的だとか、具体性に欠けるなどと言われます。いろいろ言われていますが、不十分であっても書類になって誰でも見られるというのは、これは大事なことです。大事なことは戦略プランを読み込んで、過不足を意識するということである。そこから新しい戦略も生まれてくる。大金をかけた戦略プランを無駄にしないために、このジオパーク戦略プランをしつ

かり読み込んで、どこが足りる、足りないということを考えていく、そういう取り組みがされていかなきゃいけない。そういう共通認識ができていますか、庁内では。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

○産業部長（酒井良尚君）

戦略プランの取りまとめをした中で、整理を進めていく中で、これをさらに具体化するために特に何が必要かということ整理しようということで、このジオパーク戦略プロジェクトで検討してきたところでございます。

その中で戦略プランの2つの柱でありますいわゆる情報発信、それから受け入れ体制の整備という、その2つの両輪を、どういうふうに具体的に動かすかということで、3つのプロジェクトの柱に、それぞれ3つの戦略という形で、もう少しシンプルに整理をし直したという作業をやったところでございます。

この中で、やはりそれぞれの作業を進める中では私のほうからも、その戦略の考え方をきちんと頭の中に入れて、それぞれの戦略にどのような事業として取り組むかというのを、メンバーの皆さんにしっかりと整理をしていただきたいという指示を出しまして、このような形で、今、整理を進めているところでございます。

そういったところから、それぞれの庁内の担当にかかわったメンバーの皆さんにとっては、このジオパークの戦略に対する意識というのは、持っていただいているものと理解しております。これを具体的に、今度は事業としてどう展開するかというのは、それぞれの所管課の事業担当者のいわゆる考え方や、あるいは取り組みの姿勢、そういったものにかかわってくるところでありますので、私としては、さらに皆さんにしっかりと意識を持ってもらうように、意識の喚起を引き続き進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

せっかくつくったもの、これを具体化していくためのやっぱり手法というのは、庁内全体でやっぱり展開していかなきゃいけない。ただ、プロジェクトチームをつかって、そこから中心にいくわけですが、各課との連携というところもやはりしっかり注視して、確認しながら進めてもらいたいなと思います。

おもてなしの充実というのは大事ですが、お客さんが来てくれないことには、おもてなしもない。誘客拡大が重要である。そして来ていただいたお客さんには、リピーターになってもらわなきゃいけない。その誘致拡大、誘客拡大というところで聞かせていただきますが、情報発信の手段としてどのようなことを考えているか、また、取り組んでおられるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

情報発信のツールとしては、活字媒体が基本になりますけどパンフレット、それから新聞、それから近年よく使っているのはフリーペーパーということで、富山、長野方面にあります。掲載は有料ですけど、自由に持って行っていただくと。よく定期観光ではそれをぶら下げて、これを見て来ましたというお客様はこのごろ多くなりました。

そういうところから始めまして、皆さん初日にもお話があったとおり、テレビを通じて糸魚川のジオパークというコマーシャルを1日1回させてもらってます。あるいはFM新潟等のご協力で、糸魚川からの情報発信ということで、いわゆる電波を通じた情報発信ということを行ってきました。特に、地方局からキー局で関東圏の地方局というルートができて、おかげさまでいろんなマスコットを含めて10分、12分という番組をいただきながら、無料で現地の生放送に提供させてもらっております。そのようなネットワークも今構築されてる。また、記者リリースということで、新潟並びに富山を含めまして、随時チャンスがあれば県庁経由の中で記者発表ということで、催事の発表や糸魚川の出来事を情報として発信させてもらっております。これがここ近年、非常にある意味で意味を持つ活動になってきております。

もちろん一般的な高速道路上での観光キャンペーン、こちらもやっておりますし、JRの皆さんからお手伝いいただきまして、大宮方面でのキャンペーンも行っております。

また、ホームページ等でもネットの活用ということで、まだまだソーシャルネットまでは展開できない状況でありますけど、ホームページ等での閲覧が可能なようにジオパークと観光情報の提供ということに力を入れてきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

ご存じの方もおられると思いますが、佐賀県の武雄市では秘書広報課にフェイスブック係という

のがあったんですね。これを4月からフェイスブック・シティ課に昇格させたと。ツイッターやフェイスブックを市政に積極的に活用していることで、武雄市は有名になっています。こういう事例を庁内で、調査検討されていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

○総務課長（渡辺辰夫君）

武雄市の事例につきましては承知をしておるんですが、少し距離が遠いということもありまして、できれば視察等にお伺いをしたいなということで、副市長のほうからも指示をいただいております。ただ、行くまでに少し検討が必要かなということであります。

それから、武雄市さんの場合はフェイスブックをホームページにも使っておられるわけですが、確かにそういった使い方ができるという利点もあるということは重々承知をしておるんですが、現在、私らのところでは、とりあえずツイッターでの情報発信ということで、ホームページと併用しての利用に取りかかったところでありまして、今後、フェイスブックの活用についても、いろいろそういった先進地を見たりする中で検討していきたいということであります。ただ、今言われますように今のうちの体制で、係の中の一部の人間がやっている体制の中では、なかなかこれは新しいシステム構築していくというところでは、弱い部分があるかなということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

今、システム構築ってありましたけど、フェイスブックはシステム構築する必要ないんですね、システムできてますから。一般のホームページと違ってフェイスブックのいいところは、情報発信の細やかさだけでなく、随時やりとりができるんですね。誤解しないで聞いてほしいんですよ。フェイスブックをやったら、みんな解決すると言ってるわけでないんで、1つの例として、情報発信の例として、ほかのこともあるでしょうがということでお話してますので、市民からの要望や、市外からのジオパークに関する要望を受けて、直接的にそれに返答できる、対応できる。そして、そのことをほかにも広く周知できるという、そういうようなやりとりができます。情報に関する手法は日進月歩ですので、専門に調査研究しながら需要に合った手法を用いていくことが情報発信、双方向の情報交流には不可欠だと思うんですね。

交流人口拡大施策の効果にも情報発信の巧拙、うまい下手が大きく影響を与えます。せっかく多

くの人が汗を流した取り組み、イベントも、外からのお客さんが少なければ寂しいことになる。頑張ってるしかないんですが、うまく情報発信ができれば反応も違ってくると思います。何年も続けてるうちに、どんどん大きくなってくる。

先ほどクラシックカーレビューの話もありましたし、先般、東京にいる友人からメールをもらって、お盆に能生のカニ屋さんのところへ寄ったら非常に多くの人でびっくりしたと。ああいう状況をつくるには、随分時間がかかったと思うけど、ぜひジオパークに関しては時間をかけないで、早く効果を出してほしいというのがありました。そういう意味では、やはり情報発信の仕方の巧拙というのは、多く影響をしてくるというふうに考えますね。

今、フェイスブックの話に戻りますが、武雄市では全職員がフェイスブックのアカウントを持っているんです。全員がフェイスブックに登録して、日常的に情報発信をしてる。仕組み的にどうなっているかというのと、友達になると、自分が友達として登録した人のデータがダァーと並んで出てきますから、自分で例えば糸魚川市のホームページをのぞきに行く必要がないというところが、発信された情報がどんどん入ってくるんですね。だから情報交換がスムーズにいくわけですよ。

武雄市のように、例えば全職員が取り組めばコミュニティの輪は大きく広がっていく。それぞれの知人に広がっていくわけですから、その効果は相当大きいものになるというふうに思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

○総務課長（渡辺辰夫君）

フェイスブックの活用につきましては、議員がご指摘のとおりであるというふうに今考えております。ただ、先ほども言うておりますように、直ちに今取り組める状況にはないわけですし、もう少し検討が必要でありますし、そういった中では、先進地視察等もさせていただきたいというふうに考えております。

当面、我々、現状の中でできることとして、メールマガジン等を送付をするようなことを、少し現状の我々が持っている機能の中では取り組めないかなということ、今検討しているということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

課長、メールマガジンは読まないですよ、読まない。だから手軽に見れるようなとこなんです。フェイスブックは、確かに見に行かれたらいいと思います。ただ、例えば総務課の職員全員がフェイスブックに登録して、パソコンからでもいいですから、どんどん情報発信してやってみるとのことだとして、入り口としては1つあるんじゃないですか。かちっと仕組みをつくって、全面的に取り組むのもそうだけど、入り口はそうやってやりゃいいんですよ。部長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

情報発信の方法には、今、伊藤議員がおっしゃられるように、日進月歩でいろんな方法が出てきております。ご提案の方法も1つの方法であると思いますので、完全なものというよりも、試行錯誤の中で取り組むことが必要だと思っておりますので、ご提案の方法も含めて検討してみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

ちょうどきょう、私のとこへ来た情報で、9月7日の下野新聞に出ていたんですが、栃木県の新聞ですね、日光市で職員が自発的に自主研修制度で、6月に発足させたSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）活用研究会が、自分たちで日光市のフェイスブックのページをつくってどんどん運用を始めたということのようです。こういう例もあるんですね。細かい話はいいですが、取り組みのスタンスはいろいろあると思いますよ。個人でやってるんですから、個人がホームページをつくるのは大変でしょう。個人がぱっとやれることをやってる。だからいろんなものを試してみたらいいと思うんですよ、本格運用じゃなくても、そんなふうを考えていただけたらと思います。

次いきますが、これは何度も言ってきたことですが、全職員が常にジオパークを意識して業務に取り組んでいかなければなりません。ジオパークは意識しているけど、自分の仕事となったときにはジオパークを意識しない、多分そんなことが多いと思います。もう違うと思ってるわけですよ、自分の仕事は違うと思ってる。職員まるごとジオパークにならなきゃ、市民まるごとジオパークは絶対無理ですよ。だからそこに対しての取り組みですが、先ほどプロジェクトチームと、その各課との連携の話にもなってくるんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

○総務課長（渡辺辰夫君）

職員への意識づけの関係ですが、我々としては例えば建設部門、農林部門の関係者が道路を直すときに、これはジオパークとどういった関連があるかというようなことを考えながら、当然仕事をしてきているというふうに思っておるわけです。そのほか例えば教育文化施設を所管する部署においても、当然ジオパークとの関連は常に考えて仕事をしてきているというふうに思っております。それは総務や企画部門においても同様であるというふうに考えております。ただ、まだまだその取り組みが各課の課長、係長を通じて浸透しているかという点、これからもう少し、浸透していかなくちゃいけない部門かなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

これはもう最初のころからずっと言ってるんですね、このジオパークの質問を始めたときから。初期のころの質問では、例えば社会資本整備というのは、今、課長から話がありましたけど、公共施設の整備に関して言えば、最初はせいぜい国道や県道への看板の設置ぐらいだったですね。そこへ行くアクセス道路、それから環境保全のための例えば治山、それから治水、砂防、それから地すべり防止というような工事に関しても、当然ジオパークと関連づけて考えていかなければいけないというふうになります。

平成21年に世界ジオパーク認定されて、もう3年が経過して、来年度に再審査を迎えますよね。各ジオサイトへのアクセス道路の改良や新設、例えば2つのヒスイ峡ですね、地図上で見ると山1つ隔てて、橋立ヒスイ峡と小滝のヒスイ峡があります。ずっと回るとえらい遠いですけど、地図上で見ると非常に近いですね。この連携道路の新設だとか、今ほど言った砂防、地すべりといったような形、こういう観点の国、県との連携というのは、どういうふうに進められているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

私のほうから地域づくりという観点から、ちょっと1つ例を挙げて説明をさせていただきたいと思っています。

小滝地区は70%間近の高齢化の地区で、今24のジオサイトの1つの小滝川ジオサイトのあるところであります。ここで例えば22年、23年と県とタイアップした地域プロジェクト事業が展開されて、何とか特産品をつくりたいと。外から人を呼び込むための1つの目玉として特産品づくり、これに取り組んだりしてきております。

小滝地区の中では高齢化した地域とはいえ、おもてなしのいわゆるプロジェクトの中でいえば、受け入れ体制のプロジェクトになりますけども、決して上手ではありませんけれども、それでもバスを1台、2台こなす中で、少しずつ改善が図られているというふうに聞いております。

こういった地区住民の熱い盛り上がりがある一方、国、県の動きとして、皆さんがそう頑張っているのであれば、県道整備も応援しましょうということで、振興局みずから振興局配分の県道整備に多額の予算を費やしていただいています。これはもちろん、ジオサイトへのアクセス道路の整備であります。また、さらにその上へいきますと、北陸地方整備局松本砂防事務所が、いわゆる砂防事業にジオサイトの視点をを入れて河川整備、堤防整備もろもろ含めてご協力をいただいています。

これは1つの地区の例ではありますけれども、こういったことで官の動き、それから民の動き、ある意味で、決して100%うまくいってる事例とは申し上げませんが、こういった形で着実に動いている。その結果、クラブツーリズム等のそういったソフトでの入り込みが何千人、あるいはまた何万人という形でふえていくこともあるというふうに思っております。こんな取り組みが全市的な広がりとなるのが、このジオの戦略プロジェクトのあるべき姿なのかというふうにイメージをしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

具体的な例では新幹線にかかわる駅下から周辺整備については、まちづくり交付金の中でジオパークを生かした形の中で、およそ駅周辺から小滝地区までを含めた1,000ヘクタールを対象地区として、この中でジオにかかわるものについては、これはレンガ車庫の保存なり、キハの今展示についても、そういう中でやらせていただいていますし、また、新しい社会資本のほうも国のほうでいろんな制度が変わりますが、そういう中では、いろいろ何年かの要望へ行く中では、常にジオの話をしとるもんですから、逆にそれに絡めるものとはというような照会も受けることもあります。そういう中では、やはりだんだんだんだん位置づけられておりますし、例えば仕事をとるときでも、ジオに絡めて補助事業をお願いしますという、伝わりやすくなったというふうなことはございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

今、小滝の例、それから駅周辺の例というふうに、確かにジオが大分根づいて事業展開されているのはわかりますし、先ほど斉藤課長が言われたように、それが全市的な広がりになっていくということが、またいろんな社会資本整備にもジオパークが生かされていく。そして社会資本整備が整ったことによって、ジオパークが推進されていくということになっていくんだらうなと思います。

こども課では、ジオ給食の日を始めましたよね。山ノ井保育園の取り組みが、新聞でも取り上げられていました。地産地消給食では不足していた、栽培も加味されたすばらしい取り組みだというふうに思います。

このことを見て、ほかの部門でも水平展開できないかなと。要するに食とジオを絡めるということで、そういうふうに思ったんですが、例えば福祉部門の給食サービスに同様の展開をしていく、ジオ給食の日をつくるというようなことで、割と難しいお年寄りの理解を促進していくなんていうこともあるんじゃないかなと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

現在、配食サービスを利用されている方は、高齢の方で120人ほどいらっしゃいますが、その中でジオを意識づけした食事提供ができるかどうか、検討させていただきたいと思います。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

というようなことを、その1つの取り組みがあったときに、各課で何か考えてもらうという、くせをつけてもらいたいということなんです。例えば高齢者福祉の一環として高齢者対象の、といっても65歳の元気な方々も含めてですけど、ジオメニューやジオレシピのコンテストをやるとか、

そういうことだってあり得るんじゃないかと思います。だから、こども課がジオ給食の日をつくったことによって、いろんな広がりを見せるというようなことを、ぜひ庁内で行ってほしいなと思いますね。

8月に奴奈川経済懇話会の講演会で、「大ヒットの方定式」という講演がありました。残念ながら、そう言ってる私も所用が重なって聞くことができませんでしたが、その後、いろいろな方から話を聞き、資料をいただいてちょっと勉強してみたんですが、ますます行けなかったことが残念に思える内容でした。市関係者の方でも聞かれた方はたくさんいると思います。

この吉田さんという講師の方は、お父さんが能生出身だということで、子どものころからよく能生で遊んでいたという話なんですけど、さまざまな形で、いろいろな団体や個人と連携をとっていくということが重要だと思います。こういう機会をとらえて、また何かコネクションをうまくつなげていくというふうにしていかなければいけない。ありとあらゆるつてを絶対逃がさないで、強いものにしていくということが必要だと思うんですが、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく、やはりジオパークは人と人とのつながりの中で醸成していく活動だろうと思っております。冒頭といいましょうか、いろいろの中でお答えさせていただいたように、いろいろ今、情報が行き来し合う中において、人と人とのつながり、フェイス・トゥ・フェイスが、私はやはり一番信頼のあるつながりになっていくんだと思うわけでございまして、糸魚川という、ここを一つのふるさとというような形の中でのつながりのある方々においては、余計それが強くなるんだろということ、ジオパーク大使や、また関係ある人たちについても、これからも広げていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

今、市長のほうからお話がありましたが、ジオパーク大使の皆さんには本当に大変頑張っていたいて、心より感謝するところではありますが、そこにあわせて新しい手もやっぱり打っていかなくちゃいけないですね。

担当である交流観光課長も困っているとは思いますが、市民の盛り上がりというか、理解が言ったほうがいいんでしょうかね、思うように進んでいかない。やってる人はやってるでしょう、物すごく活発にやってるわけですけど、平均レベルでいくということなんです。これはジオパーク戦略プランをつくったような委託などというような形ではなくて、専門家の意見を広く聞いて、アドバイスを受けられるようなつながり、輪を広げていくということが重要です。

必要な方には、またジオパーク大使のほかにも、もう少し違った形でアドバイザーになっていただくというような制度もつくっていったらいいんじゃないかなと思いますね。講演内容を私は人づてに聞く、資料を見ると、非常に糸魚川のことを、やっぱり一生懸命考えておられる方が大概講演してますよね。そういう新しい制度づくりというものも考えてもいいんじゃないかと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろんな制度、またいろんな手法、いろいろあると思うんですが、やはり糸魚川を売っていく上で何が一番いいのかというのも、そんなに絞り込まなくてもいいと思ってるわけでありますが、しかし、そういったものをとらえる中において、効果のあるものは少しでもお願いしていきたいという気持ちであるわけであります。

しかし、今進めてるところもあるわけがございますので、それとあんまり相反するようなものであっては、今度は逆に市民のほう戸惑うわけで、右の話か左の話か、どちらへ行けばいいのという話も出てくるわけがございますので、そういったとこの整理もしながら進めていきたいと思っておるわけでありまして、私といたしましては市民の皆さん方、今、4万7,000人おれば、4万7,000の考え方があられるわけがございますので、そういった人たちみんなが、やはり乗っていかれるようなものが一番いいのだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

いろんな制度を、けんかするような制度はつくっちゃいけません。それはもう、もちろんなことですよ。その中で制度化するのがいいのかも含めて、考えていかなきゃいけないというこ

とはよくわかりますので、ぜひそのところのつながりを、うまく糸魚川のために生かしていけるようにしていただきたいと思います。

このジオパーク戦略プラン、私も今回質問するに当たって、ちょっとまた読み込んでみて、この話に戻っちゃうんですけど、これは多額の資金を投入しました。これ1,200万円だったですかね、およそ、そんなもんだと思いますが、でき上がった内容を生かせるかどうか、それが高いかどうかということになっていくということだと思います。内容にはちょっと不満が残りますね、初めから言ってるように。だけど結局、考えてみると、委託の段階でこちら側からの要求、求めているものが、やはりちょっと曖昧だったところがあったのではないかと、その時期には。委託する側が、はっきりしたイメージないまま、専門家が、こっちがびっくりするようないいもんをつくってきてくれないかなという期待感で委託をしたというような言い方が、当てはまるのかなという気がします。

今、作成の委託をするとしたら、もっと違う要求の仕方をして、いいものをつくらせることも多分できるのかもしれませんねというところが、1つの切り口にもなっていくと思うんですが、そういうふうに思いませんか、私はそう思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに何もなしの中へ今突入していたわけでございまして、前例も、またそうしたモデルもない状況で、我々は方向性をどのようにまとめていくのか、方向性はやっぱり市民の皆様方にお示しもしなくちゃいけない中においては、言葉だけではだめだぜという中で進んだわけでございまして、そしてどちらかというと、本当に基本構想的に入っていったわけでございまして、そういう中で逆に今ジオパークをやっておる、特に5地域ぐらいが日本の中でも最先端を進んでる中において求めたわけでございまして、非常にわかりにくいところも出てきておると思っておりますし、また、違ったような部分を見受けられる部分もあるわけでありまして。

そういう中で、それを1つの切り口として進めさせていただきながら、また具体的に進める自己体制のプロジェクトを持っておるわけでございまして、それをどのように生かしていくかと、本当に先ほど議員がご指摘のとおり、我々はそれをしっかり使うことが大事だなと思っております。専門家のつくったものでございまして、決して違ってる部分はないんだろうと思っております。専門家のつくったものでございまして、決して違ってる部分はないんだろうと思っております。専門家のつくったものでございまして、決して違ってる部分はないんだろうと思っております。専門家のつくったものでございまして、決して違ってる部分はないんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

策定段階で、私もこれ途中で見せてもらったときに、ああ、さすが専門家だ、周辺分析といいますか、環境分析は抜群にすごいなと思いました。ところが打っていく策が、やはりちょっと総花的で具体性に欠けていて、どうもよくないなと思ったわけですが、これは今、市長が言われるようにやっぱり専門家がつくったものなので間違いはないんです。ただ、おもしろくない、言ってみりゃね、そういう言い方ができるんかもしれないです。

それで今みたら、今これを委託したら、もっといいものがつくれるということは、この中身をしっかりと分析していけば、何が必要であるかということが、もう今既に具体化してきているんだと思うんですよ。だからそこをヒントにしながらいろんな切り口を見つけていく、具体的にしていこうということが大切であろうと思います。

そして先ほども言いましたような外部との連携の中で、何を目的として、どのような団体や個人と連携をとった取り組みをしていくべきか。また別の目的では、また違った方々と連携を求めるといようなことが明確になるんじゃないですかね。今であればそういう視点で、今、庁内で苦しんでいる部分、多分、交流観光課長は大分苦しんでると思いますよ。そこをどういうところに救いを求めていくか、ヒントを求めていくかということが、具体的になってきてるんじゃないかなと思うんです。そこに視点を置けば、置かなきゃだめですよ、そこにしっかり取り組んで考えなきゃだめですけど、そう今できるんじゃないかと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

今やったら、それよりいいものができるかということで非常に難しいんですけど、エネルギーをかなり使いましたんで、それ以上のものは、どうかなともまた思っております。

ただ、データ検証等は非常にかなり緻密にやっていただいたと思っております。そういう題材が、1つジオパークの戦略プランとしてあったゆえに、このプロジェクトができたのと、それから、それに対してやっぱり刺激を受けて、各活動をしなきゃいけないというふうな心構えに変わってきておりますので、やはりそれなりに意義があったものと。

ただ、今、議員おっしゃるとおり、はっきり言いまして、何を狙うかというのが大きく見えてきていると思います。1つは、やはり先ほどから言ってる市民としての総体のジオパークに対する意識

をもうちょっと上げていくということ、それから職員も同様だと思います。きょうも昼、帰りましたらはがきが来てました、資料請求のはがきでした。これは埼玉県です。新潟へ行くので二、三、週間後に、糸魚川市の資料を送ってくださいということで、即座に対応していただきましたけど、やはり「糸魚川」の「魚」は、「魚」ではなくて井戸の「井」でした。そういうことが実態であります。

これも1つ、やはり紹介事例なんですけども、はとバスのアンケートでもたくさんとらせていただきました。ほかのクラブツーリズムでもとらせてもらっております。そのデータでは、糸魚川に初めて来ましたとか、知りませんというのが圧倒的に多いです。そのためにもやっぱり情報発信は必要だし、いろんなツールを使っての展開が確かに考えられると思います。試行錯誤でありますけども、いま一歩進めながら糸魚川が定着するように、字も覚えられるような形で、今後も情報発信をしてまいりたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

決意表明みたいだったんですけど、僕が言ったことには答えてないと思います、残念ながら。どういう人たちにアドバイスを求めていったらいいか、どういうところを外に求めていったらいいか、中で苦しんでいる分、そういうことが明確になってきてるんじゃないですかということ聞いたんですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

ちょっと決意表明的にとられたみたいですけど、別に力んだわけではなくて。

基本的には、市内外を含めた第三者の意見が貴重かなというふうに思ってます。今、東京大学の庭師倶楽部にも活躍していただいております。あるいはJRの皆さんとも連携しております。また、観光協会とも常日ごろやりとりしてます、商工会議所もあります。いろんな意味で、外に向けての飯山さんとか小谷さんからも、いろんな交流をさせてもらってます。

外から見た糸魚川、それをしっかり認識しながら、やはりもうちょっと情報提供を含めて活動を強化しなきゃいけないと思ってますけど、いろんな方々からお知恵、ないしは題材をいただく中で、やっぱり今の取り組みの状況をしっかり把握していきたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

外からの目線って大事ですよ。やっぱり中側で一生懸命やってる、それを外の人がどういうふうに見てるかと。

例えば見せ方という言い方をよくしますが、何を見たがっているかというところを、しっかり把握していくっていうことが大事だというふうになると、やはり外からの視点で、そこを考えていかなければいけないということ。自分がジオパークってこういうもんだから、こういうふうに説明したいという思いでは、多分、相手は面倒くさくてしょうがないですね。そうでなくて、何を見たがっているかという、聞きたがっているかということ、しっかりと伝えていかなきゃいけない。

最後になりますが、平成21年の認定以来、一生懸命に取り組んできた今現在、一度取り組んでいる、一生懸命やってる状況から背を伸ばして、これまでを振り返って、そして足元を見詰め、そして将来を見据えて考えるべきところを考え、検討すべきところを本当に必要なメンバーで検討する。必要なときは外部の力も借りる、なるべくお金をかけないで。そして目指すところを再度明確にした上で、立てるべき方策をしっかりと立てて、進んでいっていただきたいというふうにお願いをしまして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。